

「建築鉄骨超音波検査技術者」実技試験・更新試験における 超音波探傷器の持込みについて

2025 年度「建築鉄骨超音波検査技術者 実技試験・更新試験」において、受験者が自ら持参する超音波探傷器等に関する諸条件は次のとおりです。

1. 持込みを認める超音波探傷器

- デジタル探傷器は下表に掲載した機種以外は受験できません。アナログ探傷器は全ての機種が可。
- ※1～※6 がついた探傷器については、試験会場で試験委員が当該項目をチェックして不備があった場合、使用できませんので、必ず事前に確認しておいてください。

メーカー等	機 種
カールドイチェ（日本マテック）	ECHOGRAPH 1095
日本ベーカーヒューズ （旧 GE センシング&インスペクション・テクノロジーズ）	USM100（Wi-Fi アダプター※1, USB メモリーを取り外して持参すること） USM35S（USM35）, USM35X DAC（USM35X）, USM35X RB , USM35X JE, USMGo, USM36 DAC&S, USMGo+ DAC&SW
菱電湘南エレクトロニクス	UI-23, UI-25, UI-25S, UI-S7, UI-S7a, UI-27, UI-S9, UI-R1, 新規:UI-29
エビデント・インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン （旧エビデント）	EPOCH 4, EPOCH 4B, EPOCH III, EPOCH IIIB, EPOCH LT, EPOCH LTC, EPOCH XT, EPOCH 600, EPOCH 650, EPOCH 6LT
K&M（NDT マート&レンタル）	KFD50
SIUI（NDT マート&レンタル）	CTS-2020E
KJTD	USFD-20（「実技試験モード」に切り替えて持参すること）
Sonatest（ポニー工業／日本マテック※4）	Masterscan700M※2, MasterscanD-70※3 （全てのファイルを消去して持参すること※5）
Sonatest（ポニー工業）	WAVE※6 （専用の試験用ソフトをインストールして持参すること。終了後、消去のこと）

※1 Wi-Fi 機能の取り外し方法はメーカーに確認してください。

※2 ソフトウェアバージョン 2.0.2 に限る。※3 ソフトウェアバージョン 1.5.1 に限る。

※4 日本マテックから購入した探傷器のソフトウェアバージョンが古い場合は、自身でアップデートを行うか、またはポニー工業へ依頼してください。

※5 ファイルの消去方法は、メーカーに確認して下さい。

※6 試験専用ソフトのインストール方法はメーカーに確認して下さい。

- 探触子（斜角・垂直）、探傷ケーブル、標準試験片（STB-A21, STB-A3）、対比試験片（ZRB）、接触媒質（マシン油、ソニコート）及び電源（AC 100V）は、会場に準備してあります。
- アナログ探傷器の場合は、補助目盛板を持参して下さい。

（注意）上記の持込が認められている機種（認定機種）について、探傷器自体の性能を認定しているわけではありません。したがって、試験当日に機器の性能上の不備・不具合などで困らないよう、性能等を確認の上、持参してください。

2. 注意事項

- 持込んだ探傷器の性能、取扱い、不具合及び事故等の処理は、一切、自己責任とします。探傷器は、必ず保守点検をし、取扱い方法を習得しておいて下さい。なお、試験では、試験中に探傷器の不具合が発生した場合でも再受験を認めません。
- デジタル探傷器の場合、試験開始前及び終了後にイニシャライズ処理（工場出荷状態にし、全てのメモリーを消去）をします。重要なデータは、バックアップを取っておいて下さい。また、工場出荷状態からの操作方法を習得しておいてください。
- アナログ探傷器の場合、試験開始前に補助目盛板のエコー高さ区分線を消去します。

- ・試験では、主催者が用意した探触子及び探傷ケーブルを使用します。この際、持参する探傷器の接栓が探傷ケーブルの接栓（探傷器側；レモ（大））と異なる場合は、主催者が接続用変換アダプターを用意しますので、必ず、申請書に探傷器の接栓（型式）を記入して下さい。（接栓が不適合の場合、受験できません。）また、電源は原則として AC 100V を使用して下さい。バッテリーを使用する場合は、試験時間（新規：約 4 時間，更新：約 2 時間）を充分満たしておく必要があります。（充電切れの場合でも再受験できません。なお、試験会場では充電不可。）
- ・探傷器は当日会場に持参して下さい。（宅配便等での会場への直送はお断りします。）

以上